

濱口梧陵国際賞授賞式



わが国の津波防災の日である11月5日が、2015年の国連総会において「世界津波の日」に制定されたことを受け、2016年に創設された「濱口梧陵国際賞」は、津波防災をはじめとする沿岸防災技術分野で顕著な功績を挙げた国内外の個人又は団体を国土交通大臣が表彰するものです。なお、当該取り組みは、当センターも含む関係18団体からなる組織委員会によって運営されております。

今般、2022年の受賞者が次の1名・2団体に決定し、11月8日（火）に、斉藤鉄夫国土交通大臣（上記写真）、林幹雄自民党国土強靱化本部長代行のご臨席の下、海運クラブにて授賞式が開催されました。

【受賞者・受賞団体】

○佐竹健治教授 東京大学地震研究所所長

・津波波形、歴史資料、津波堆積物の分布などと、断層運動による津波シミュレーションの結果を比較・照合することで、過去の地震・津波の規模や発生間隔の長い巨大地震のサイクルを解析する方法を創出・発展させた。その分析結果は最大級の地震・津波の想定や、ハザードマップの作成、災害に強いまちづくりに向けた施設の設計や対策強化などに活用されている。

○パプアニューギニア大学自然科学部災害リスク軽減センター（パプアニューギニア）

・パプアニューギニアと太平洋地域の災害に対する意識と備えを向上させるために設立されて20年を迎え、国内及び国際レベルで数多くの教育、研究、意識向上活動で成果を上げ、地域社会の持続的成果を目指して努力を続ける、不可欠な存在であることは明らかである。

○オレゴン州立大学工学部OHヒンズデル波浪水理実験場（アメリカ）

・1972年に設立された、海洋・海岸の物理過程について水槽実験で応用と基礎の両方の研究を行う最先端のセンターである。共同利用施設として2002年以来、米国国立科学財団が私撰する共同プロジェクトで米国内外の研究者に利用の機会を提供してきた。

（※）濱口梧陵氏は、江戸時代末期（1854）の安政南海地震で自らの資産を投げ打ち村人の命を津波から守った人物



佐竹 健治 教授



ジョセフ エスピ博士
（災害リスク軽減センター センター長）



ペドロ ロモナコ博士
（ヒンズデル波浪水理実験場 場長）



授賞式